

『楽器メーカーが言えない電子ピアノのデメリット!?!』

いいのかな?こんなタイトル名つけても……。とは思ったのですが、あまりにも安易に電子ピアノに決めてしまって、後で先生方が困ってしまっている実態を見て、**警鐘を鳴らす意味であえて過激なタイトル**にしてみました。

まず**電子ピアノはあくまでピアノの代用品**であるということを知ってください。というよりデジタル録音されている音を出す電子楽器全てが代用品なのです。例えば電子オルガン。古い教会に設置されているパイプオルガンは、高価でメンテナンスも大変、移動もできない。でもバロック音楽や古典音楽の曲にはどうしてもパイプオルガンが必要だ。と言うわけで、デジタル技術がとても効果的に活用されているのです。だから電子ピアノもあくまで代用品。といっても生のピアノは教会のパイプオルガンほどには費用はかかりません。一般家庭にもたくさん入っていて、別に特別な物ではない。だから代用しないといけない理由は、本当は限られてくるはず。でも実際は生のピアノよりも電子ピアノのほうがたくさん売れている。**理由はただ単に安くて便利そうだから。**

でもね、本当にピアノのレッスンをするのであれば、電子ピアノだといろいろ不都合な事があるんです。でも楽器メーカーは絶対そんなことは言わない。だって**本当の事を言っちゃうと自社が発売した電子ピアノが売れなくなるから**。だから電子ピアノだけを作っているメーカーは電子ピアノをほめるし、両方作っているメーカーは双方の良い所しか言わない。これは販売店も同じ事。電子しか扱わない電機量販店は電子ピアノの欠点は決して言わない。知らないのかも。

じゃあ両方扱っている当社のスタンスはというと、恥ずかしながら今までは、聞かれたら答えるというもの。でも最近それじゃあヤバイって思い始めた。だって最近インターネットが普及していろいろな情報が飛び交っている。たくさん情報が飛び交うと良いように見えるけど、だんだん

みんな情報の真偽を見極めることが面倒になってくる。そうするとこの電子ピアノは**名前の通っているブランド品だから間違いはないだろうと、思考停止に陥っちゃう**わけです。

まあそういう事情があるということを知っておいて頂いて、ピアノレッスンの練習用に電子ピアノを選ぶとおこるデメリットを言います。まず**タッチは確実に弱くなる**。これは便利なボリュームつまみが原因。生のピアノだと音が小さければタッチを強く弾かないと大きい音は出ません。でも電子ピアノでボリュームが付いていれば音が小さければつまみ回しちゃうでしょ。特に子どもは。これじゃあタッチが強くなるわけがない。

それからピアノレッスンにとって致命的なのは、生のピアノと違って、電子ピアノだとどんな弾き方をしても、鍵盤の沈み込むスピードが一緒なら同じ音しか出ない。こう弾けばこんな音が出るという、**経験による記憶の引き出しが増えない**ということ。判りやすく言うと上手にならないということだ。

そもそもピアノレッスンって何を習うんですか?ただ指運びだけを習うのであれば、ちょっとした楽譜の知識さえあれば誰でも教えられる。でもそうじゃないでしょ?ここはこんなふうに音を出したほうが良いよ……。とか、そこはもっと優しい感じでとか、曲の中で音の出し方を微妙に調整することで、**豊かな曲想を表現する効果的な方法**を習うわけでしょ。だからこんな音を出してって言われた時に、音の出し方が記憶の引き出しにあれば出せるけど、電子ピアノで練習してる子はその記憶の引き出しがないので、音が思うように出せないという状況になるのです。この記憶の引き出しを増やすにはその子の技術レベルは関係ない。むしろ**初心者の段階に生のピアノでたくさん遊び弾き**をしているほうが、記憶の引き出しが増えて効果が高いようです。